

コード	3966	授業科目	情報科教育の研究		
担当者	長谷川元洋	開設学部学科	共通		
科目区分	教職科目				
開講クラス	大2（除子）	開講期	通年	単位数	4
履修上の条件	「情報」教免取得希望者。「情報教育論」も平行して受講することを強く推奨する。				
履修者数上限	なし				
【授業の目的およびねらい】 高校 普通教科「情報」を教えることができる授業技術の養成と教育法を学ぶ。 実践的な模擬授業演習の中で学ぶ形をとり、教育実習に行った際に困らない力を身につける。					
【授業の概要】 テキストにそって、持ち回りで授業を演習しながらすすめる。 毎回の授業の形態は「前半：模擬授業」「後半：批評会」である。 * 授業の考え方、設計についての講義を行う場面もある。 * 教育実習における指導と同じ形態をとり、指導案の作成から、授業構成、授業の実施、反省までを全員行う。					
【授業計画】 ＜前期＞ 第1回 「情報」の免許資格についての解説 高校 専門科目「情報」と普通科目「情報」の学習内容の解説 授業の進め方についての説明 第2回－第4回 授業の設計、考え方について 第5回－第13回 指定したテキストを用い、模擬授業を輪番形式で行う。 当番の者は授業を実際に演習し、その後、批評会を行う。 ＜後期＞ 第14回－第26回 情報Bを想定した授業演習 (コンピュータの仕組みと理解(デジタル回路、アルゴリズム等) モデル化とシミュレーション等) * 金城学院高校で教育実習を行っている4年生の授業参観を行う予定である。(時間が合わない場合は取りやめる) * テレビ会議システムを使って、実際に小学生、中学生、高校生に遠隔授業を行う場面を設定することがある。					
【評価方法】 前期 模擬授業の授業案、授業の構成力(工夫する力も含める)、指導のために使用する資料、レポート授業中の発言、グループに対しての貢献度から評価。 後期 前期と同じ観点に加え、学習指導案全体案も評価の対象とする。なお、学習指導案全体案は合格が出るまで何度でも再提出を求める。					
【テキスト】 (1) 高等学校学習指導要領解説 情報編 平成12年3月 文部省 開隆堂出版社株式会社発行 (2) 模擬授業等に使用するテキスト 前期 『実践情報科教育法－「ものづくり」から学ぶ』 東京電機大学出版社 後期 文部科学省検定教科書 「みんなの情報B」 オーム社					